stcli dp（data protection）コマンド

- stcli dp コマンド （1 ページ）
- stcli dp vm コマンド （2 ページ）
- stcli dp group コマンド （18 ページ）
- stcli dp peer コマンド （24 ページ）
- stcli dp schedule コマンド （31 ページ）

stcli dp コマンド

レプリケーションとディザスタ リカバリのためのデータ保護（DP）コマンドです。

stcli dp [-h] (vm | group | peer | schedule)

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
group	セットのいずれかが必要。	データ保護グループのスナップショット操作。
peer	セットのいずれかが必要。	サイト レプリケーション ペアリング操作。
schedule	セットのいずれかが必要。	送信側クラスタのクラスタ全体で、レプリケーションを一時停止してから再開します。
vm	セットのいずれかが必要。	レプリケーション スナップショット操作による VM データ保護。

コマンド デフォルト

なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン

`stcli dp` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm コマンド

保護グループを介してではなく、仮想マシンに個別に適用される HX Data Platform ディザスタリカバリ コマンドとネイティブのレプリケーション コマンド。

stcli dp vm [-h] {snapshot | add | list | info | delete | movein | moveout | schedule | prepareReverseProtect | reverseProtect | failover | testfailover | prepareFailover | migrate | hxtask}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
snapshot	Unsupported	HX リリース 3.5(2g) 以降、スナップショット コマンドのサポートは、Cisco Tech サポートのみに限定されています。一般的な使用はサポートされていません。
add	いずれか 1 つが必須。	仮想マシンにデータ保護を追加します。
list	セットのいずれかが必要。	データが保護されている仮想マシンをリストします。
info	セットのいずれかが必要。	データが保護されている仮想マシンに関する情報を表示します。
delete	セットのいずれかが必要。	仮想マシンからデータ保護を削除します。
movein	セットのいずれかが必要。	データ保護仮想マシンを保護グループに移動します。
moveout	セットのいずれかが必要。	保護グループからデータ保護仮想マシンを移動します。
schedule	セットのいずれかが必要。	仮想マシンのデータ保護をスケジュールします。
prepareReverseProtect	いずれか 1 つが必須。	指定仮想マシンの逆の保護アクションを準備します。
reverseProtect	セットのいずれかが必要。	指定の仮想マシンの逆の保護アクションを実行します。
failover	セットのいずれかが必要。	復元 HX Storage Cluster から個別仮想マシンをフェールオーバします。
testfailover	セットのいずれかが必要。	復元 HX Storage Clusterから個々の仮想マシンの復元をテストするためのものです。

オプション	必須またはオプション	説明
prepareFailover	セットのいずれかが必要。	指定仮想マシンのフェールオーバ アクションを準備します。
migrate	セットのいずれかが必要。	指定の仮想マシンを管理します。
hxtask	セットのいずれかが必要。	動作に関連するデータ保護。

コマンド デフォルト なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン `stcli dp vm` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot コマンド

データ保護仮想マシンのレプリケーション スナップショット操作。

（注） このコマンドとそのサブコマンドはサポートされません。

stcli dp vm snapshot [-h] {create | replicate | list | info | delete}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
create	セットのいずれかが必要。	仮想マシンのレプリケーション スナップショットを作成します。
replicate	セットのいずれかが必要。	仮想マシンのレプリケーション スナップショットをレプリケートします。
list	セットのいずれかが必要。	このクラスタで利用できるレプリケーション スナップショットをリストします。
info	セットのいずれかが必要。	レプリケーション スナップショットの情報を表示します。
delete	セットのいずれかが必要。	指定されたレプリケーションスナップショットを削除します。

コマンド デフォルト なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン `stcli dp vm snapshot` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot create コマンド

仮想マシンのレプリケーション スナップショットを作成します。

stcli dp vm snapshot create [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapname SNAPSHOTNAME [--desc DESCRIPTION] [--quiesce] [--offline]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--snapname SNAPSHOTNAME	必須です。	レプリケーションスナップショットの名前。
--desc DESCRIPTION	オプション。	レプリケーションスナップショットの説明。
--quiesce	オプション。	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーション グループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。
--Offline	任意	オフラインスナップショットを撮影します。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm snapshot create` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot replicate コマンド

仮想マシンレプリケーション スナップショットをリモート クラスタにレプリケートします。

stcli dp vm snapshot replicate [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOT-ID --outgoing OUTGOING

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。

オプション	必須またはオプション	説明
--snapshot-id SNAPSHOTID	必須です。	レプリケートする VM のスナップショット ID。
--outgoing OUTGOING	必須です。	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスタの ID。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp vm snapshot replicate` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot list コマンド

このクラスタで利用できるレプリケーション スナップショットをリストします。

stcli dp vm snapshot list [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp vm snapshot list` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot info コマンド

VM スナップショットの詳細を表示します。

stcli dp vm snapshot info [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOTID

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。

オプション	必須またはオプション	説明
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--snapshot-id SNAPSHOTID	必須です。	VM のスナップショット ID。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm snapshot info` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot delete コマンド

指定されたスナップショットを削除します。

stcli dp vm snapshot delete [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOTID

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--snapshot-id SNAPSHOTID	必須です。	削除する VM のスナップショット ID。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm snapshot delete` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm add コマンド

仮想マシンでデータ保護を追加します。

stcli dp vm add [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter では、仮想マシンの固有 VMBIOSUUID を指定します。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 か仮想マシンの ID タイプ (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm add` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm list コマンド

データ保護を備えた仮想マシンをリストします。表示内容には、レプリケーション スケジュールが含まれています。

stcli dp vm list [-h] [--vmname VMNAME] [--vmid VMID] [--brief]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmname VMNAME	オプション。	指定された名前に一致する保護された仮想マシンをリストします。
--vmid VMID	オプション。	耐用年数全体で、VM を追跡するために使用するために指定された内部の元の VM ID に一致する仮想マシンで、コマンドを実行します。
--brief	オプション。	概要のみを表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、保護されたすべての仮想マシンをリストします。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm list` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

次の例では、保護された仮想マシンの概要をリストしています。

```
# stcli dp vm list --brief

vmInfo:
    ----------------------------------------
    name: dslvm-2
    uuid: 423f11c4-20c9-893b-0dd8-2a0ad59ad634
    ----------------------------------------
    name: dslvm-1
    uuid: 423f1d85-990a-4e06-ebef-a215c0ec4cf8
    ----------------------------------------
```

stcli dp vm info コマンド

データ保護仮想マシン情報をリストします。

stcli dp vm info [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID のタイプです（vcmoid、vmbiosuuid）。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm info` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm delete コマンド

仮想マシンからデータ保護を削除します。

stcli dp vm delete [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID タイプ (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp vm delete` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm movein コマンド

データ保護仮想マシンを保護グループに移動します。

stcli dp vm movein [-h] --vmids VMIDS [VMIDS ...] --groupid GROUPID

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
--groupid GROUPID	オプション。	スタンドアロン仮想マシンを移動するグループの ID。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp vm movein` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm moveout コマンド

データ保護仮想マシンを保護グループに移動します。

stcli dp vm moveout [-h] (--vmids VMIDS [VMIDS ...] | --allVMs) --groupid GROUPID

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
--allVMs	オプション。	グループから仮想マシンを移動します。
--groupid GROUPID	オプション。	スタンドアロン仮想マシンを移動するグループの ID。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp vm moveout` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm schedule コマンド

HyperFlex データ保護 VM スケジュール操作。

stcli dp vm schedule [-h] {set,get}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--set	いずれか 1 つが必須。	VM スケジュール操作を設定します。
--get	いずれか 1 つが必須。	VM スケジュールを取得します。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp vm schedule` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm schedule set コマンド

VM レプリケーション スケジュールを設定します。

stcli dp vm schedule set [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES [--start-time REPLICATIONSTARTTIME] [--quiesce-using-tools] [--outgoing OUTGOING]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
--start-time REPLICATIONSTARTTIME	任意	mm/dd/yy_HH_MM 形式でのレプリケーション開始時刻。
--quiesce-using-tools	任意	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーション グループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。
--outgoing OUTGOING	任意	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスタの ID。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm schedule set` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm schedule get コマンド

VM レプリケーション スケジュール情報を取得します。

stcli dp vm schedule get [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm schedule get` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm prepareReverseProtect コマンド

指定仮想マシンの逆の保護アクションを準備します。

stcli dp vm prepareReverseProtect [-h] --vmid VMID [--force]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
--force	オプション。	引数を検証することなく、逆の保護準備を実行します。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm prepareReverseProtect` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm reverseProtect コマンド

指定された VM の逆の保護アクションを実行します。

stcli dp vm reverseProtect [-h] --vmid VMID [--force] [--secondaryOnly]

オプション	必須またはオプション	説明
-h, --help	任意	指定されているコマンドに関連するヘルプ メッセージを表示して終了します。
--vmid VMID	必須	仮想マシンの VMID BIOS UUID。
--force	任意	引数を検証せずに操作を実行します。
--secondaryOnly	任意	セカンダリで reverseProtect のみを実行し、prepareReverseProtect がプライマリで完了していることを確認します。

stcli dp vm failover コマンド

リカバリ HX Storage Clusterから個々の仮想マシンをフェールオーバーするためのものです。リカバリ HX Storage Clusterは、仮想マシンを保護するレプリケーション ペアのターゲット クラスタです。

このコマンドは、status コマンドによるモニタに使用されるジョブ ID を出力します。

stcli dp vm failover [-h] --vmid VMID [--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID | --resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME] [--folder-id FOLDER-ID | --folder-name FOLDER-NAME] [--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]] [--poweron] [--force]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のリソースプールに配置します。
--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のリソースプールに配置します。
--folder-id FOLDER-ID	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のフォルダに配置します。
--folder-name FOLDER-NAME	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のフォルダに配置します。
--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]	オプション。	送信元ネットワークを宛先ネットワークにマップします。形式は `source_network:destination_network` です。次に例を示します。 `--network-mapping "source_network1:destination_network1", "source_network2:destination_network2"`
--poweron	オプション。	リカバリ後に VM の電源をオンにします
--force	オプション。	引数を検証せずにリカバリを実行します

コマンド デフォルト

場所は、デフォルトではコマンド実行パスになります。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm failover` コマンドでは、2つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するか、または任意で、[] で囲まれた引数を指定します。

stcli dp vm testFailover コマンド

回復 HX Storage Cluster からの指定仮想マシンのテスト フェールオーバ。リカバリ HX Storage Clusterは、仮想マシンを保護するレプリケーション ペアのターゲット クラスタです。

stcli dp vm testFailover [-h] --vmid VMID [--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID | --resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME] [--folder-id FOLDER-ID | --folder-name FOLDER-NAME] [--test-network TESTNETWORK | --network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]] [--poweron] [--force] [--newname NEWNAME]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のリソース プールに配置します。
--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のリソース プールに配置します。
--folder-id FOLDER-ID	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のフォルダに配置します。
--folder-name FOLDER-NAME	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のフォルダに配置します。
--test-network TESTNETWORK	省略可能なペアの 1 つ。	テスト リカバリに使用するネットワークをテストします。すべてのソース ネットワークは、回復後にこのネットワークに割り当てられます。
--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]	省略可能なペアの 1 つ。	送信元ネットワークを宛先ネットワークにマップします。形式は `source_network:destination_network` です。次に例を示します。 `--network-mapping "source_network1:destination_network1",`
--poweron	オプション。	回復後に仮想マシンの電源をオンにします。
--force	オプション。	引数を検証することなく、強制的にテスト フェールオーバを実行します。
--newname NEWNAME	オプション。	回復済み仮想マシンのテストの新規名。

コマンド デフォルト

場所は、デフォルトではコマンド実行パスになります。

使用上のガイドライン　`stcli dp vm testFailover` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するか、または任意で、[] で囲まれた引数を指定します。

stcli dp vm prepareFailover コマンド

指定仮想マシンのフェールオーバ アクションを準備します。

stcli dp vm prepareFailover [-h] --vmid VMID [--force]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
--force	オプション。	引数を検証することなく、逆のフェールオーバ準備を実行します。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp vm prepareFailover` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm migrate コマンド

指定の仮想マシンを管理します。

stcli dp vm migrate [-h] --vmid VMID [--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID | --resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME] [--folder-id FOLDER-ID | --folder-name FOLDER-NAME] [--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]] [--poweron]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるリソースプール ID。

オプション	必須またはオプション	説明
--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるリソースプール名。
--folder-id FOLDER-ID	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるフォルダ ID。
--folder-name FOLDER-NAME	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるフォルダ名。
--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]	オプション。	「Source Network":"Destination Network」という形式による、送信元から宛先までのネットワーク マップ。
--poweron	オプション。	回復後に仮想マシンの電源をオンにします。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm migrate` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm hxtask コマンド

動作に関連するデータ保護。

stcli dp vm hxtask [-h] [--vmid VMID] [--id ID] [--name NAME][--state {new,starting,running,suspended,shutting_down,completed,terminated,cancelled,exception,stalled}]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
– vmid VMID	必須	保護グループに追加する仮想マシンの ID。
--id ID	任意	仮想マシンの ID。

オプション	必須またはオプション	説明
--name NAME	オプション。	レプリケーション ネットワークに割り当てられている参照名。 （注） 小文字で始まる hx タスク コマンドだが、`--name` のフィルタリングは大文字から始まります。使用例 – testFailover の代わりの TestFailover。 フィルタされる名前は次のとおりです。 TestFailover フェールオーバー PrepareReverseProtect PrepareFailover ReverseProtect 移行
--state	オプション。	レプリケーション プロセスの状態: new 起動 実行 suspended shutting_down 「completed（完了）」 終了された キャンセル済み exception stalled

コマンド デフォルト なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン `stcli dp vm hxtask` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するか、または任意で、[] で囲まれた引数を指定します。

stcli dp group コマンド

個々の仮想マシンではなく仮想マシンの保護グループに適用される HX Data Platform ディザスタ リカバリ コマンドとネイティブのレプリケーション コマンド。

stcli dp group [-h] {add | list | delete | vm | snapshot | schedule}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
add	セットのいずれかが必要。	データ保護グループを追加します。
list	セットのいずれかが必要。	データ保護グループのリスト。
delete	セットのいずれかが必要。	データ保護グループを削除します。
vm	セットのいずれかが必要。	データ保護グループ内の VM タスク。
snapshot	セットのいずれかが必要。	データ保護グループ内のスナップショット操作。 （このコマンドはサポートされません）
schedule	セットのいずれかが必要。	データ保護グループのレプリケーションをスケジュールします。

コマンド デフォルト

なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン

`stcli dp group` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

（注） HX リリース 3.5(2g) 移行、**<command name>** コマンドのサポート Cisco Tech サポートのみに限定されています。一般的な使用はサポートされていません。

stcli dp group add コマンド

データ保護グループを追加します。

stcli dp group add [-h] --groupname GROUPNAME

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--groupname GROUPNAME	必須です。	保護グループの名前。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp group add` コマンドでは、2つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group list コマンド

データ保護グループの設定およびスケジュールをリストします。

stcli dp group list [-h] [--groupname GROUPNAME] [--groupid GROUPID]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--groupname GROUPNAME	オプション。	保護グループを付与されているグループ名とともにリストします。
--groupid GROUPID	オプション。	保護グループを付与された ID とともにリストします。

コマンド デフォルト

すべてのデータ保護グループをリストします。

使用上のガイドライン

`stcli dp group list` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

この例では、データ保護グループをリストしています。

```
# stcli dp group list

clusterEr:
    type: cluster
    id: 21038104951568023:6930626691413900957
    name: source17-2.5.1a
vmGroupState: active
vmGroupEr:
    type: dp_vmgroup
    id: 4de5d40f-82d6-40f6-9425-e4942bdd9be9
    name: group1
members:
    ----------------------------------------
    idtype: 2
    type: dp_vm
    id: 423f38fd-9754-a25c-0d60-1ddacacaac60
    ----------------------------------------
    idtype: 2
    type: dp_vm
    id: 423fc732-4841-3a0a-8d75-6c7bdcf8de67
    ----------------------------------------
```

```
schedules:
    replicationSchedule:
        targetClusterEr:
            type: cluster
            id: 1279191129902762643:7329250794747596775
            name: target17-2.5.1a
        enabled: True
        mode: 2
        startTime: 07/19/17_20:24
        intervalInMinutes: 15
```

stcli dp group delete コマンド

指定されたデータ保護グループを削除します。

stcli dp group delete [-h] --groupid GROUPID

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--groupid GROUPID	必須です。	保護グループの ID。 保護グループを削除するには、すべての仮想マシンを削除する必要があります。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp group delete` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group vm コマンド

Hyperflex データ保護グループ VM 操作。

stcli dp group vm [-h] {add | list | delete}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
add	セットのいずれかが必要。	VM をデータ保護グループに追加します。
list	セットのいずれかが必要。	データ保護グループ内の VM をリストします。
delete	セットのいずれかが必要。	データ保護グループから VM を削除します。

コマンド デフォルト

なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン　`stcli dp group vm` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group vm add コマンド

VM をデータ保護グループに追加します。

stcli dp group vm add [-h] --groupid GROUPID --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--groupid GROUPID	必須です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
--vmid VMID	必須です。	保護グループに追加する仮想マシンの ID。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	保護グループに追加する仮想マシンの ID タイプ。 VCMOIDオプションはサポートされません。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp group vm add` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group vm list コマンド

データ保護グループに含まれている VM をリストします。

stcli dp group vm list [-h] --groupid GROUPID

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--groupid GROUPID	必須です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp group vm list` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group vm delete コマンド

保護グループの VM を削除します。

stcli dp group vm delete [-h] --groupid GROUPID --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--groupid GROUPID	必須です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。

オプション	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須です。	保護グループから削除する仮想マシンのID。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	保護グループから削除する仮想マシンの ID タイプ。 データ保護グループからVMを削除します。 VCMOIDオプションはサポートされません。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp group vm delete` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group snapshot コマンド

HX Data Platform データ保護グループのスナップショット操作。

stcli dp group snapshot [-h] {create}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
create	必須です。	指定された保護グループ内のすべての VM のデータ保護スナップショットを作成します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp group snapshot` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group snapshot create コマンド

特定のグループ内の VM のデータ保護レプリケーション スナップショットを作成します。

stcli dp group snapshot create [-h] --groupid GROUPID --snapshot SNAPSHOT [--desc DESC] [--quiesce]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--groupid GROUPID	必須です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
--snapshot SNAPSHOT	必須です。	スナップショットの名前。
--desc DESC	オプション。	スナップショットの説明。

オプション	必須またはオプション	説明
--quiesce	オプション。	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーション グループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。

コマンド デフォルト 説明は空白です。休止は設定されていません。

使用上のガイドライン `stcli dp group snapshot create` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group schedule コマンド

Hyperflex □□□□□□ □□□□□□□□□

stcli dp group schedule [-h] {set | get}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
set	セットのいずれかが必要。	データ保護グループのレプリケーション スケジュールを設定します。
get	セットのいずれかが必要。	データ保護グループのレプリケーション スケジュールを取得します。

コマンド デフォルト なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン `stcli dp group schedule` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group schedule set コマンド

データ保護グループのレプリケーション スケジュールを設定します。

stcli dp group schedule set [-h] --groupid GROUPID --replication-interval REPINTERVALINMINS [--start-time REPSTARTTIME] [--quiesce-using-tools] [--outgoing OUTGOING]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--groupid GROUPID	必須です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。

オプション	必須またはオプション	説明
--replication-interval REPINTERVALINMINS	必須です。	分単位のレプリケーション間隔（頻度）。ここには、VM をターゲット クラスタにレプリケートする頻度を設定します。
--start-time REPSTARTTIME	オプション。	`mm/dd/yy_HH_MM` 形式でのレプリケーション開始時刻。最初のレプリケーションをいつ開始するかを指定します。
--quiesce-using-tools	オプション。	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーション グループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。
--outgoing OUTGOING	オプション。	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスタの ID。

コマンド デフォルト

開始時刻は、コマンドの実行直後です。休止は設定されていません。発信クラスタは、ペアリングされたリモート クラスタです。

使用上のガイドライン

`stcli dp group schedule set` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group schedule get コマンド

データ保護グループのレプリケーション スケジュール情報をリストします。

stcli dp group schedule get [-h] --groupid GROUPID [--outgoing OUTGOING]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--groupid GROUPID	必須です。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
--outgoing OUTGOING	オプション。	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスタの ID。

コマンド デフォルト

発信クラスタは、ペアリングされたリモート クラスタです。

使用上のガイドライン

`stcli dp group schedule get` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer コマンド

レプリケーション ペアのリモート（ピア）クラスタでの Hyperflex データ保護操作。

stcli dp peer [-h] {get | add | list | query | edit | datastore | delete | forget | schedule}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
get	セットのいずれかが必要。	ピア クラスタの詳細を取得します。
add	セットのいずれかが必要。	指定された入力を使用してペアを追加します。
list	セットのいずれかが必要。	すべてのペアを表示します。
query	セットのいずれかが必要。	ペア詳細を取得するためにペアに問い合わせます。
edit	セットのいずれかが必要。	ピア管理 IP のペアの説明を編集します。
datastore	セットのいずれかが必要。	既存のペアでマップされたデータストアを編集します。
delete	セットのいずれかが必要。	レプリケーション ペアを削除します。
forget	セットのいずれかが必要。	指定された入力を使用してピアを削除します。
schedule	セットのいずれかが必要。	ピア スケジュール操作。

コマンド デフォルト

なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン

`stcli dp peer` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer get コマンド

ピア クラスタの詳細をリストします。

（注）

プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

stcli dp peer get [-h] --mgmtIp MGMTIP --username USERNAME

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--mgmtIp MGMTIP	必須です。	ピアクラスタの管理 IP。
--username USERNAME	必須です。	ピアクラスタのユーザ名。 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのユーザー パスワードを入力します。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp peer get` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer add コマンド

指定された入力を使用してレプリケーション ペアを追加します。

注目　プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

（注）　このコマンドは、HX Connect のレプリケーション ペアを設定しながら自動的に完了する検証プロセスと同様に、テスト リモート レプリケーション ネットワークを取り消したり、検証したりすることはしません。

stcli dp peer add [-h] --name NAME --description DESCRIPTION --mgmtIp MGMTIP --username USERNAME

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--name NAME	必須です。	クラスタ ペアの名前。
--description DESCRIPTION	必須です。	クラスタ ペアの説明。
--mgmtIp MGMTIP	必須です。	ピアクラスタの管理 IP。
--username USERNAME	必須です。	ピアクラスタのユーザ名。 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのパスワードを入力します。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp peer add` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer list コマンド

すべてのレプリケーション ペアを表示します。

stcli dp peer list [-h]

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp peer list` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer query コマンド

ペアの詳細についてレプリケーション ペアに問い合わせます。

stcli dp peer query [-h] --name NAME

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--name NAME	必須です。	クラスタ レプリケーション ペアの名前。

コマンド デフォルト　なし。

使用上のガイドライン　`stcli dp peer query` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer edit コマンド

ペアの説明またはピア管理 IP を編集します

（注）　（このコマンドはサポートされません）

stcli dp peer edit [-h] --name NAME [--description DESCRIPTION] [--mgmtIp MGMTIP] --username USERNAME --password PASSWORD

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--name NAME	必須です。	クラスタ ペアの名前
--description DESCRIPTION	必須	クラスタ ペアの説明
--mgmtIp MGMTIP	必須	ピアクラスタの管理 IP

オプション	必須またはオプション	説明
--username USERNAME	必須	ピアクラスタのユーザ名 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのユーザー パスワードを入力します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp peer edit` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer datastore コマンド

既存のレプリケーション ペアでマップされたデータストアを編集します。

（注） このコマンドは、HX Connect のペアを編集しながら自動的に完了する検証プロセスと同様に、テスト リモート レプリケーション ネットワークを取り消したり、検証したりすることはしません。

stcli dp peer datastore [-h] {edit | editstatus}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
edit	セットのいずれかが必要。	ピア管理 IP のペアの説明を編集します。
editstatus	セットのいずれかが必要。	データストア編集ジョブのステータス。

コマンド デフォルト なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン `stcli dp peer datastore` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer datastore edit コマンド

既存のレプリケーション ペアでマップされたデータストアを編集します。

stcli dp peer datastore edit [-h] --name NAME --datastore DATASTORE [--storageOnly] [--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--name NAME	必須です。	クラスタ ペアの名前。
--datastore DATASTORE	必須です。	データストアは、操作とペアリングされます。フォーマットは次のとおりです。 `local_ds:remote_ds:OPERATION` 操作の選択：`ADD`、`DELETE`。
--storageOnly	必須です。	SRM または外部 DR オーケストレーションは、入力データストアペアを管理します。
--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES	必須です。	分単位のレプリケーション間隔

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli dp peer datastore edit` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

この例では、レプリケーション ペアに関連付けられているデータストアを変更しています。

```
# stcli dp peer datastore edit
<local ds 1>:<peer ds 1>:ADD,<local ds 2>:<peer ds 2>:DELETE,..
```

stcli dp datastore editstatus コマンド

レプリケーション ペアのデータストア マッピング変更のステータスを表示します。

stcli dp peer datastore editstatus [-h] [--jobid JOBID]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--jobid JOBID	オプション。	データストア変更タスクのジョブ ID。

コマンド デフォルト

ジョブ ID のデフォルトでは、すべてのデータストア編集のステータスがすべて表示されます。

使用上のガイドライン `stcli dp peer datastore editstatus` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

この例では、レプリケーション ペアに関連付けられているデータストアを変更しています。

```
# stcli dp peer datastore editstatus
[<jobid>,<jobid>...,<jobid>]
```

stcli dp peer delete コマンド

レプリケーション ペアからピアを削除します。

重要 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

stcli dp peer delete [-h] --name NAME --username USERNAME [--mgmtIp MGMTIP]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--name NAME	必須です。	クラスタ レプリケーション ペアの名前。
--username USERNAME	必須です。	ピアクラスタのユーザ名。 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのユーザー パスワードを入力します。
--mgmtIp MGMTIP	オプション。	ピアクラスタの管理 IP。

コマンド デフォルト 管理 IP は、現在関連付けられているピアと見なされます。

使用上のガイドライン `stcli dp peer delete` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer forget コマンド

これは、ピア間のペアリング（ソース クラスタとターゲット クラスタ）を解除します。別のクラスタとペアリングするために各クラスタを解放します。

stcli dp peer forget [-h] [--name NAME] [--all]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--all	セットのいずれかが必要。	すべての部分的なペアと正常にペアになったクラスタの、ピア間のペアリングを解除します。
--name NAME	セットのいずれかが必要。	指定された名前のクラスタ ペアのために、ピア間のペアリング（ソースクラスタとターゲット クラスタ）を解除します。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

stcli dp peer forget コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp schedule コマンド

データ保護スケジュール操作。

stcli dp schedule [-h] {pause | resume | status}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
pause	セットのいずれかが必要。	レプリケーションを一時停止します。リモート クラスタへのレプリケーション スナップショット ビットの送信を停止します。
resume	セットのいずれかが必要。	レプリケーションを再開します。リモート クラスタへのレプリケーション スナップショット ビットの送信を再開します。
status	セットのいずれかが必要。	スケジューラの状態のクエリを実行します。これはデータベースの状態であり、スケジュールされたイベントの状態ではありません。スケジューラがフルであることを意味するのではありません。

コマンド デフォルト

なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン

`stcli dp schedule` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp schedule pause コマンド

レプリケーションを一時停止します。既存のジョブの監視を停止し、リモートクラスタにレプリケーション スナップショット ビットを送信する新しいジョブの作成を停止します。

stcli dp schedule pause [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp schedule pause` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp schedule resume

レプリケーションを再開します。既存のジョブの監視を再開し、リモート クラスタにデータレプリケーション ビットを送信する新しいジョブの作成を再開します。

stcli dp schedule resume [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp schedule resume` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp schedule status

スケジューラの状態のクエリを実行します。これはデータベースの状態であり、スケジュールされたイベントの状態ではありません。スケジューラがフルであることを意味するのではありません。

stcli dp schedule status [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp schedule status` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。